

Environment

01

高速道路がつなぐ未来の環境

環境経営を推進する取組み

SDGsの観点から環境経営を推進する



SDGsの観点から環境経営を推進する

質の高い環境経営を進めるためには、社員一人ひとりの高い環境意識が不可欠です。NEXCO東日本では、ISO 14001の認証取得(本社)や環境委員会の設置、環境方針・行動指針の携帯カードの所持などにより、社員の環境意識を高め、社会から信頼される企業を目指していきます。

社員の環境への意識を高めて行動の質を向上する

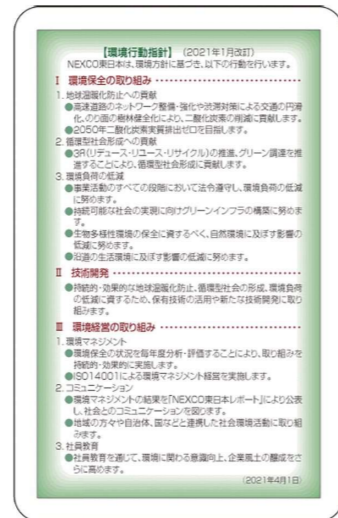
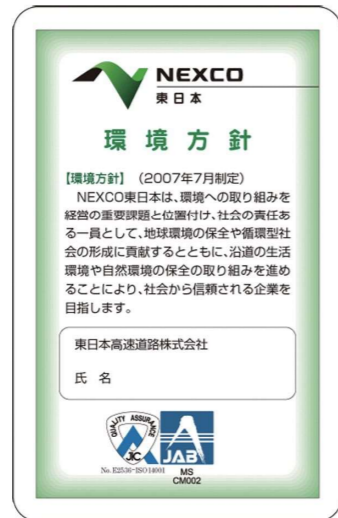
[ISO 14001 認証取得 (2024年1月25日更新認証)]

SDGs達成に向けた環境経営を推進するため、国際規格の環境マネジメントシステムISO14001の認証を本社として取得し、運用しています。

今後も現在の環境を取り巻く社会情勢をふまえ、環境マネジメントシステムのPDCAサイクルを回し、環境保全および環境活動を推進していきます。

[環境方針の社内浸透]

NEXCO東日本グループは、社会の責任ある一員として、地球環境の保全、循環型社会の形成への貢献、沿道の生活環境や自然環境の保全に取り組むことで、社会から信頼される企業を目指しています。環境意識を高めるため、環境委員会が定めた「環境方針」と「環境行動指針」の携帯カードを全社員が所持し、環境対策でも社会から信頼される企業を目指しています。



「環境への取り組み」の詳細はこちら https://www.e-nexco.co.jp/activity/technique/detail_01_2.html



自然環境を創出・保全へ

[ビオトープによる環境保全]

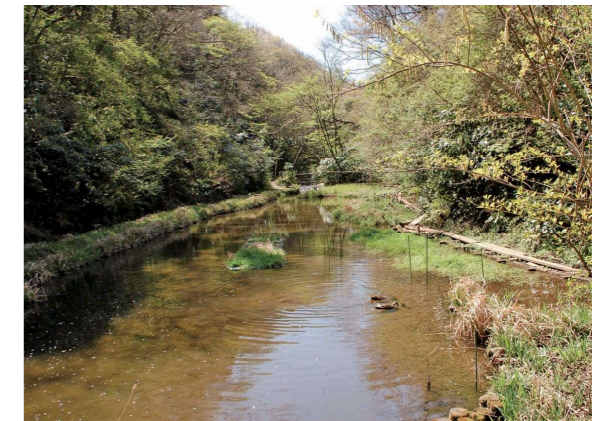
高速道路の建設は、自然環境へ配慮しながら事業を進めています。一つの対策として、ICの建設に伴い、水辺、湿地、草、中低木林や高木林などの自然環境を造成し、建設前に自生していた植生や動植物の自然環境を復元する「ビオトープ」を整備しています。

圏央道あきる野ICにあるビオトープ(2005年3月より運用)では、当初の整備から19年が経過し、2023年度末現在では、約220種の植物、約310種の動物(鳥類、両生類、は虫類、昆虫類、水生生物等)が生息し、自然環境の創出を継続しています。

NEXCO東日本グループでは、ビオトープ保全活動の一環として、地元小学生などを対象に体験学習会を開催したり、地域住民、有識者や地元高校生と一緒に保全作業を行うなど、自然とふれあう機会も提供しています。



地元小学生体験学習会の様子(あきる野ビオトープ)



釜利谷ビオトープ

ビオトープ(Biotope)……野生の動植物が生息する空間を意味するギリシャ語のBio(命)とtopos(場所)を組み合わせた造語

[エコロードによる生態保全]

高速道路の建設により、生物の生息環境・行動圏が分断されると、生息地間の行き来は生物にとって困難であり、今まで利用していた水場や餌場への経路消滅や遺伝的多様性の損失など動物が生存する上で大きな影響が出ます。そのため、生態系保全の取組みの一環として、動物が移動できる経路を確保する取組みを行っています。この取組みはロードキル軽減にもつながります。

圏央道にある「もばらーどうぶつのはし」は、エコロードとして整備された橋の一つです。開削された道路にトンネルを設置し、上部に土を敷き、植樹をすることで周囲の森林が繋ががり、動物が身を隠しながら横断できる構造になっています。また、池を設置することで野生動物が利用可能な水場を整備し、どうぶつのはし自体が生息の場にもなっています。



圏央道 もばらーどうぶつのはし

エコロードを利用するタヌキ

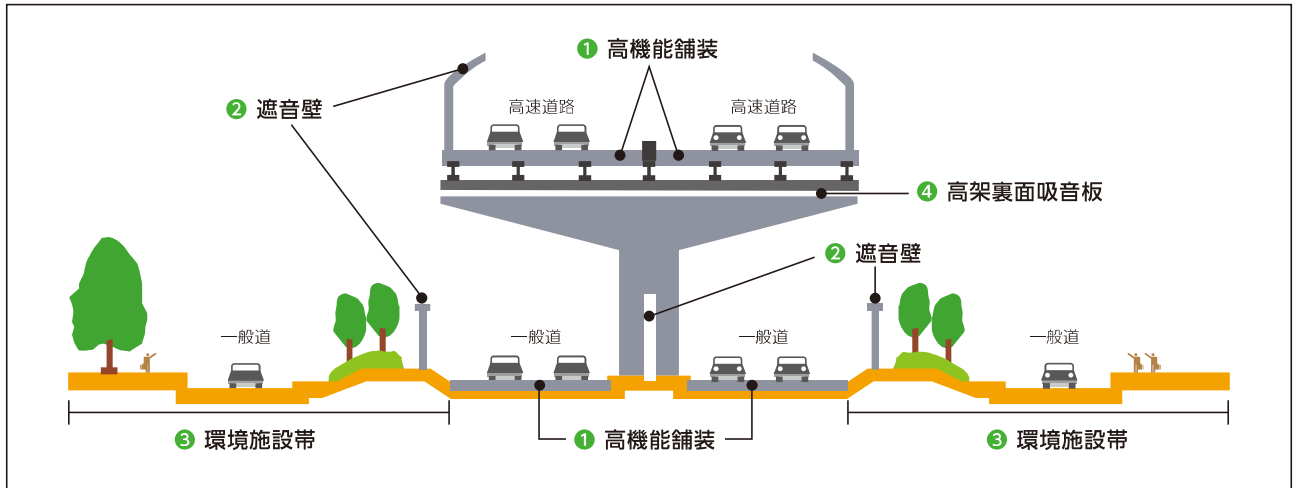


橋上部に整備された水場(建設時)

沿道の生活環境に及ぼす影響の軽減

[騒音・景観対策]

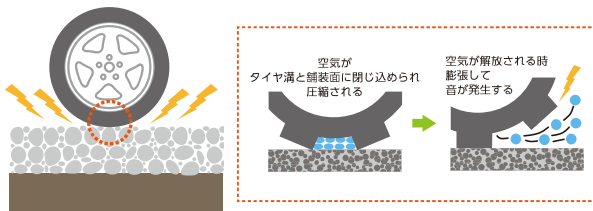
遮音壁の設置による防音対策や高速道路の側道に環境施設帯を整備するなどの対策を行っています。



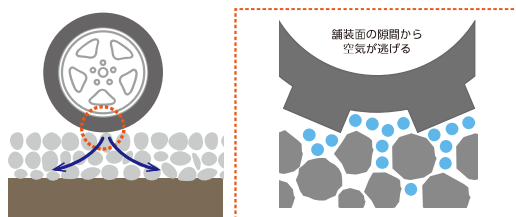
① 高機能舗装

アスファルト舗装の表層・基層部分に隙間の多い透水性の舗装用アスファルト混合物を用いることにより、路面から雨水が速やかに排除されるようにしたものです。舗装表面に隙間があり空気が逃げやすいため、走行騒音は約3デシベルほど低減できます。

通常舗装 タイヤ溝と舗装面に挟まれた空気の逃げ場がなく騒音が出やすい



高機能舗装 隙間に空気が逃げるため騒音が出にくい



② 遮音壁

音源からの直接音を遮断し、音の回折(行路差)によって減音を図ります。



③ 環境施設帯

車道の外側に幅10～20mの環境帯を設けて、植樹・遮音壁・歩道・自転車道などをつくり、騒音・振動・排気ガスなどの影響の軽減と沿道の美化・緑化を促進します。



④ 高架裏面吸音板

高架橋上から発する音を低減したり、高架橋の下を走行する車両音が高架橋に反射して拡散することを防止します。



高速道路の緑化・美化プロジェクト

[花と緑のやすらぎハイウェイガーデンプロジェクト(花プロ)]

NEXCO東日本グループでは、SA・PAの園地を利用しやすく心地よい環境とするために、「花と緑のやすらぎハイウェイガーデンプロジェクト」を立ち上げて2013年より整備を進めています。

管内計28カ所(2024年3月31日現在)に整備され、お客さまに四季折々の花と緑で彩られたガーデンの様子をお楽しみいただいています。



東北道 津軽SA(下り線)